

2021年度(令和3年度)卒業生の成長実感・満足度調査結果・分析

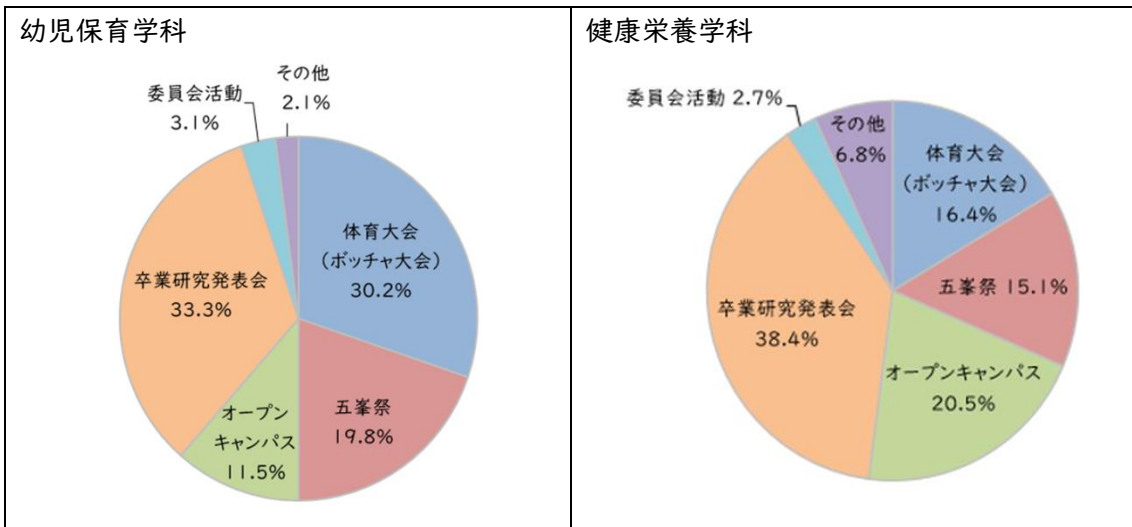
本調査は、2021年度(令和3年度卒業生)の卒業年次の成長実感・満足度を卒業直前に調査し、学科の動向を比較するとともに、学修成果獲得実感度合いを把握し、本学教育内容の一層の充実向上に資するものである。特に、当該学年は入学時から卒業まで2年間コロナによる多くの行動制限があり、そのなかでの創意工夫の学びに着目する。

調査実施日:令和4年3月10日

対象者:193名(令和3年度卒業生)

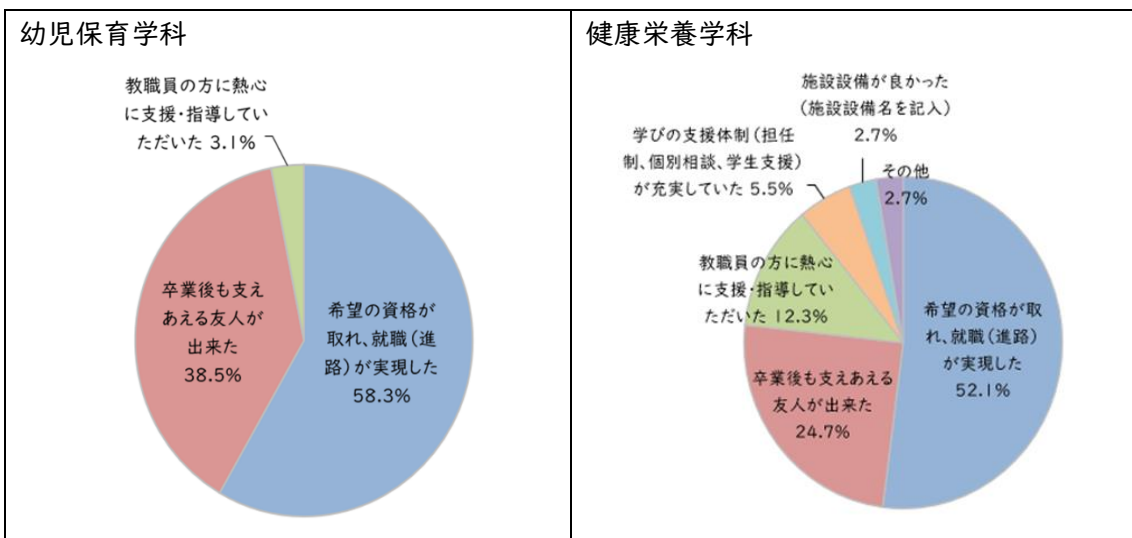
回答者数:169名(回答率87.6%)

1. やりがいがあり、達成感を感じたものは何ですか。



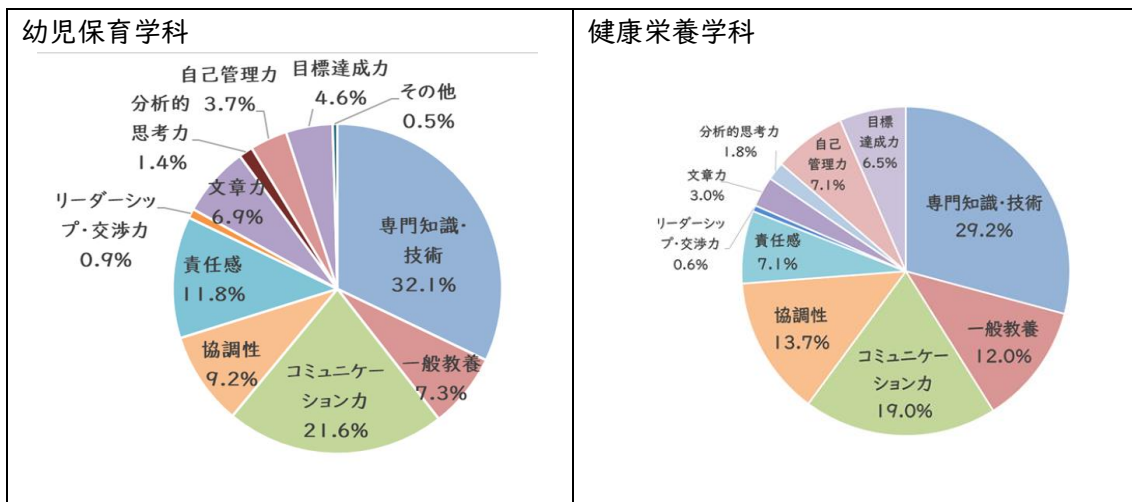
コロナ禍においても、学生が主体となり、工夫を重ねて作り上げた行事での達成感が高かった。障がい者スポーツへの理解促進も目的に、ポッチャ競技を複数会場設けて密をさける対策で取り組んだ体育大会は代表的なものである。また、卒業研究発表会は対面でのポスターセッションはかなわなかったが、オンライン形式にて各グループが発表し、他者のオンライン発表を聞くことで学びの幅が広がった。前年に比して声があがったものは、委員会活動であり、グループ内で互いに協力することで得られる成果があった。

2. 学生生活を振り返って特によかったことは何ですか。



「希望の資格が取得でき、就職が実現した」が両学科ともに半数以上であった。

3. 大学生活の中で最も力がついたと実感するものは何ですか



幼児保育学科では、「専門知識・技術」、「コミュニケーション力」、「責任感」と上位にあがり、健康栄養学科では、「専門知識・技術」、「コミュニケーション力」、「協調性」となった。今後さらなる分析の深化につなげるため、各能力の入学後の伸び率など調査項目改定を検討する。

4. コロナ禍の学生生活で工夫したことや 2 年間最も力をいれて取り組んだことを教えてください。(抜粋)

- コロナ禍ではありましたが、悔いのないように過ごすことができるよう何事も自分ができる限界まで全力で頑張りました。
- リモート授業などで友人と協力し合いながら課題に取り組んだこと。
- 就職した時に子どもの怪我にすぐ対応できるようにするために別にノートを作った
- 卒業研究ゼミでは自分が行っていることを実際に伝えることが出来てよかった。
- オープンキャンパスで自分の作った資料が好評を頂いたり、学校について知ってもらえることが出来たこと
- zoom 上ではあったが発表の機会が多くあり楽しかったです。
- マスクを着用していて目元しか見えないため、明るい声と笑顔を心がけました。
- 調理クラブで新入生の歓迎で料理を作ったのはよく覚えています。これからも調理クラブ、続いて行って欲しいです。
- 調理学研究部アンジェでは、ブルーベリー摘み体験や紅赤のつる返し・収穫など貴重な経験をさせていただきました。MAH では、オープンキャンパスの支援学生や司会など新たな挑戦をすることができました。

【学生生活の感想や要望、後輩への励ましなど、一言メッセージ(抜粋)】

- ・ とても濃く思い出深い学生生活となりました。先生方も優しく、入学して良かったと感じております。本当にありがとうございました。
- ・ 実習などで辛いこともあるかもしれませんが、終わるとやって良かったと必ず思える日が来るのでめげずに頑張ってください。
- ・ 実習は大変なことが多いけど学べるのが沢山あります。友達と支え合いながら頑張るね。

- ・ 大切な友達が出来て、単位を取れるか心配な時、実習で大変な時先生が支えてくれて、とても思い出のたくさんある2年間になりました。
- ・ 後輩へ 実習も勉強も大変なことが沢山あるけど、その時その時頑張れば後々自分の身になっていって、卒業する頃にはとてもいい思い出になります。遊びも忘れず、最後の学生生活楽しんでね!!
- ・ 沢山の仲間と出会えて様々なことを学べてより保育のことも理解ができて就職する際にも役に立てました。
- ・ 毎日楽しくさせてくれるお友達と会えて、一緒に授業を受けられて良かったです。
- ・ 2年間忙しかったですが、楽しく学校生活を送れたと思います。後輩の皆さんには、校外実習や給食管理実習など大変なことはありますが、諦めずに協力して資格取得や卒業ができるよう頑張ってください。
- ・ 栄養士としての技術や能力だけではなく、社会人としてのルールも改めて学ぶことができました。
- ・ 多くの行事がコロナ禍で出来なかったことはとても悔しいですが、校外実習や教育実習など実習先の先生方や短期大学の先生方など沢山の人が支えてくださって実習をさせていただいたことがとても幸せなことだと改めて思いました。後輩の皆さんには出来なかったことに目を向けず出来ることに感謝の気持ちをもって幸せを見つけてほしいと思いました。今できることを楽しんでほしいと思います。応援しています!

【追記】

当該学年の学生は令和4年3月16日、卒業式を迎えました。晴着姿で学位記を手に学生生活最後の活動「ウクライナ緊急募金」を行いました。

学友会長 熊倉伊織さんからのメッセージ

「私たちにできることを、卒業の日に」

ウクライナに関する報道を見るたび心が痛みました。なにか私たちにできることはないだろうか、と検討し、卒業式当日に会場に募金箱を設置、出席した私たち・保護者の皆様、教職員にウクライナ支援を呼びかけました。皆様から総額 20,908 円の善意を寄せていただきました。日本ユニセフ協会を通じ、全額「ウクライナ緊急募金」に寄付いたします。卒業の日に学友会としてこのような活動がかない、皆様からご協力をいただくことができ、本当に嬉しかったです。

(本学公式サイト再掲)

本活動に対し、日本ユニセフ協会より
2022年3月23日付感謝状を受領
しました。

